## 日本新産の帰化植物クシバツメクサ(マメ科)

## 勝山輝男・松本雅人・秋山幸也

Teruo Katsuyama, Masato Matsumoto and Koya Akiyama: *Trifolium angulatum* Waldst. & Kit. (Fabaceae), Newly Naturalized in Japan

横浜市瀬谷区の畑地でマメ科シャジクソウ属 (Trifolium L.) の見慣れない植物 (図1) が採集された。帰化によるものと考え、海外の文献にあたってみた。その結果、Coombe (1968) や Zohary & Heller (1984) の記述により、東ヨーロッパに分布し、中部ヨーロッパに帰化している Trifolium angulatum Waldst. & Kit., Pl. Rar. Hung., 1: 26 (1800) と判明した。葉の縁に櫛の歯状に鋭い鋸歯があるので、和名をクシバツメクサと新称し、日本新産の帰化植物として報告する。1 個体のみの一時的な記録であるが、日本への最初の侵入として記録にとどめたい。

日本在来種のシャジクソウ属はシャジクソウ T. lupinaster L.1 種のみであるが、太刀掛(1998)によると種ランクで18種の帰化が記録されている。なか

にはシロツメクサ, ムラサキツ メクサ,タチオランダゲンゲの ように牧草として用いられ,日 本国内に広く帰化しているもの もある。今回, クシバツメクサ が採集された一帯には,カミツ レ, イヌカミツレ, オロシャギ ク, カミツレモドキ, キゾメカ ミツレ, ナタネタビラコ, アレ チキンギョソウ, セイヨウオオ バコなどヨーロッパ大陸原産の 帰化植物が多く見られる。製粉 かすが撒かれた畑もあり,輸入 小麦に種子が混入して持ち込ま れた可能性が高い。以下に採集 された標本に基づくクシバツメ クサの特徴を記す。

1年草。高さ約10cm。全体に 無毛。下方の葉は長さ $2\sim3$ cm の柄があり、上部のものではし だいに柄が短くなる。托葉は卵 形または披針形で、先は長く尖り、全縁。小葉は3個で、倒卵形、長さ5~8mm、幅3~6mm、縁には櫛の歯状の鋭い鋸歯があり、側脈は先の方が太くなり、鋸歯に入る。花序は葉腋または枝先につき、1~2cmの柄があり、直径約1cm、多数の花をつける。各花には長さ1mm以下の小さな苞がある。小花柄は花時には萼と同長またはやや短く、花後には長さ4~5mmに伸長して、下向きに反り返る(図1-B)。萼は筒部の長さが約1.5mm、10脈があり、萼歯は5個で、針状に尖り、長さ約3mm。花冠は淡紅色で、萼よりも長く、長さ7~8mm。豆果は長楕円形で無毛、3種子を入れる。

標本: 横浜市瀬谷区上瀬谷 Sep.20, 1999 松本雅人 KPM-NA0116633.

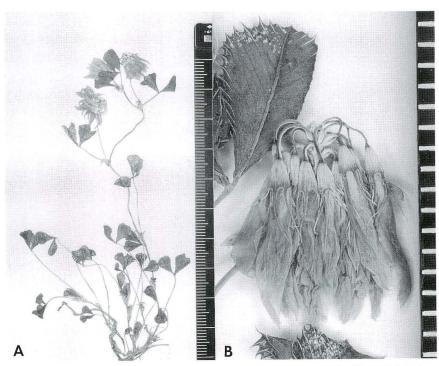


図1. クシバツメクサ *Trifolium angulatum* A: 植物体, B: 果序(最小目盛りは 1mm).

## 引用文献

- Coombe D. E., 1968. *Trifolium*, *In* Tutin T. G. *et al.* eds., *Flora Europaea*, Vol. 2., pp. 157-172. Cambridge University Press, London.
- 太刀掛優, 1998. 帰化植物便覧. 306 pp. 比婆科学振興会, 広島.
- Zohary M. & D. Heller, 1984. The Genus *Trifolium*. x+606 pp. The Israel Academy of Sciences and Humanities, Jerusalem.

(勝山: 神奈川県立生命の星・地球博物館, 松本: 神奈川県植物誌調査会, 秋山: 相模原市立博物館)